

七尾湾を望む縄文時代の集落



遺跡遠景（北から）

田岸遺跡は、のと鉄道西岸^{にしぎし}駅から北へ約1.5kmの七尾湾を望む海岸段丘^{かいがんだんきゅう}に立地する集落遺跡です。昭和39年と平成6年に鉄道より山側で発掘調査が行われ、縄文時代中期前葉～中葉の土器や磨製石斧^{まさせいせきふ}、石鏃^{せきぞく}などの石器が出土しました。今回（平成30年）は、国道249号の改築工事に先立ち発掘調査を実施しました。



調査風景

調査区の海側では土坑や穴を確認しました。土坑からは縄文時代中期中葉の土器が出土し、海側にも集落が広がっていることがわかりました。また、石器では凹石^{くぼいし}や石器を作るときにできる剥片^{はくへん}がみつかりました。剥片の中には、県内で採れる石材以外に、ガラス質で割れ口の鋭い特徴をもつ黒曜石^{こくようせき}も含まれていました。この黒曜石は、良質な長野県産とみられ、遠方からはるばる運ばれてきたと考えられます。このように、今回の調査では、当時の人々が活発に活動し、生活範囲も広範囲に及んでいた形跡^{けいせき}をみつけることができました。



H29・30 発掘調査

やないだねこのめいせき 柳田猫ノ目遺跡 [はくいし 羽咋市]

のと里山海道の拡幅工事に伴い、寺家遺跡の北側に隣接する柳田猫ノ目遺跡の発掘調査を平成29～30年度にかけて実施しました。

平成27年度の調査同様、弥生時代～中世の生産関連域が洪水砂等の堆積を挟み重複している状況を確認しました。水田の畦畔状遺構や水路、畑の畝溝、柱穴、土坑、溝などの遺構を検出し、弥生土器、土師器、須恵器、陶磁器、石製品、金属製品、木製品などの遺物が出土しました。

砂層からは、古代（奈良・平安時代）の土師器や須恵器に「太」、「中家」などと書かれた墨書土器が出土しており、調査区は、寺家遺跡の縁辺部にあたるとみられます。

また、最下層の落込みから、縄文時代前期の土器や石器がまとまって出土したことから、調査区は、寺家遺跡の下層に存在する縄文集落の縁辺部にあたると考えられます。



調査地の遠景（南西から）
（寺家遺跡方向から柳田シャコデ廃寺跡方向へ）



弥生時代後期の水路



古代の水田跡



古代の墨書土器「中家」



縄文時代前期の土器や石器



古代以降の水田でみつけた牛の足跡

H30 発掘調査

す え ちゅうせい ふん ぼ わ じ ま し
洲衛中世墳墓 [輪島市]

調査地は、能登空港にほど近い輪島市三井町洲衛地区に位置します。発掘調査は一般国道470号（輪島道路）建設に伴うもので、平地に面した高さ10mほどの尾根と、その西側の谷を調査しました。

尾根の下では以前、珠洲焼の甕や壺が出土しており、調査地の一端には洲衛集落の墓地も置かれていたことから、ここに中世の墓が築かれていることが期待されました。調査では、尾根や谷の各所に試掘溝を設けて地中の様子を探って行きました。その結果、谷に面した斜面中腹で幅1～3m、長さ10mほどの平坦面や溝状の凹みが見つかりましたが、墳墓に関わる遺構や遺物は確認されませんでした。また、谷部でも4段の平坦面が見つかり、これら平坦面は近世以降に造られた畑跡と考えられます。

遺物は近世の陶磁器のほか、須恵器壺小片が一点出土しました。調査地南方約400mには平安時代前期の須恵器窯、洲衛窯跡西支群が位置しており、調査地周辺に平安時代の遺跡があることが予想されます。



発掘作業風景



尾根部調査状況（南西から）



調査地周辺のようす（北西から）

H30 古代体験

古代体験学習講座 『縄文土器づくり』

平成 30 年 5 月 20 日（日）に「縄文土器づくり」が行われ、22 名の参加がありました。

最初に縄文時代の歴史や土器の特徴についての説明を受け、そのあと、県内から出土した本物の縄文土器を観察しながら土器づくりを行いました。特に金沢市の笠舞A遺跡の深鉢が人気でした。作り方としては、最初に円盤状の底部を作り、次に粘土ひもを底部に輪積みしながら少しずつ成形していきます。そして、成形後には縄や竹などの施文具で文様をつけていきました。

製作した土器はしっかりと乾燥させ、6月8日（金）に当センターの体験ひろばで野焼きしました。焚火に土器を少しずつ近づけながら全体をあぶり、土器の表面が黄色から紫色に変化したところで本焼きしました。さらに焼くと煤がついて黒くなり、最終的には煤が燃え飛んで赤っぽく焼きあがりました。



縄文土器の解説



縄文土器の製作



焼きあがった縄文土器

H30 古代体験

古代体験学習講座 『弥生土器づくり』

平成 30 年 6 月 17 日（日）に「弥生土器づくり」が行われ、24 名の参加がありました。

最初に弥生時代の歴史や土器の特徴についての説明を受け、前回の「縄文土器づくり」と同様に、県内出土の弥生土器を観察しながら土器づくりを行いました。煮炊きをするための甕や、貯えるための壺をモデルとして用意しましたが、文様が比較的多い壺に人気が集まりました。

製作した土器は、7月11日（水）に当センターの体験ひろばで野焼きしました。縄文土器の野焼きは開放型と呼ばれ、熱はさえぎられるものがなく拡散してしまいましたが、弥生土器の野焼きは覆い型と呼ばれるもので、ワラと粘土で土器を覆うことで熱の拡散が抑えられ、土器の受ける熱量が非常に多くなります。当日は天候にもめぐまれ、しっかりと焼きあげることができました。



弥生土器の解説



弥生土器の製作



焼きあがった弥生土器

H30 古代体験

『古代体験ミニ講座』をはじめました

平成30年度から新たな講座として、「古代体験ミニ講座」をはじめました。これまでの講座は午前9時30分から午後3時まで行うものでしたが、「半日なら講座に参加できる」とか「朝からの参加は無理」という方々の声を反映したものです。午前と午後の半日講座なので、それぞれ定員を15名とし、準備作業や職員分担の効率化にも務めました。

今年度は8回を予定しており、ここでは前半の4回分を紹介します。

『藍の生葉染め』 7月22日(日)に行いました。夏の酷暑によって藍の成長が悪く心配しましたが、なんとか生葉を確保できました。まずは、絞(しぼ)りです。豆や石、割り箸などを使って、模様を考えながらの作業です。藍の葉を絞ってドロドロの液を作り、そこに浸すこと約10分。広場に干して、できあがり。



いよいよ絞りの作業



生葉のもみだし



天日に干して気持ちいいね

『ミニ縄文土器づくり』

8月12日(日)に行いました。

通常の講座の半分の粘土で縄文土器を作りました。波状の口縁(はじょうこうえん)としたり、縄文を表面につけたり、小さくても立派な縄文土器になりました。



まずは、粘土ひもづくりから



小さくてもしっかりと波状に

『古墳模型づくり』

8月26日(日)に行いました。

中能登町雨の宮1号墳の模型です。階段のようになった斜面に、縄文アクセサリーでおなじみの粘土を貼り付け、粘土の上に葺石(ふきいし)区画を作りながら小砂利(こじり)を敷きます。古墳の周囲は自由に家(か)でつくって自分だけの古墳に。



ていねいに重ねていきます



いよいよ完成まじか

『剣づくり』

9月2日(日)に行いました。

低融点合金(ていゆうてんごうきん)で作る鑄造体験(ちゆうぞうたいけん)ですが、体験は、鑄(い)バリを取り去り、磨(みが)く体験です。だんだんピカピカになる様子に、わくわくしながらの時間を過ごしました。



湯口を切り落とすよ



ピカピカに完成

H30 古代体験

『第20回古代体験まつり』

平成30年10月7日（日）に「第20回古代体験まつり」を開催しました。台風25号の影響が心配されましたが、家族連れを中心とする約900人の来場者でにぎわいました。今回は「土偶づくり」など新たな体験コーナーが加わり、18のコーナーが設けられました。特別イベントとしては、「金沢学院高等学校和太鼓部」による和太鼓演奏が行われ、力強い音が会場に鳴り響きました。来場者も太鼓打ちに参加し、和やかに演奏者との交流が行われました。

また、『ひとり古墳部』など埋蔵文化財関連の著作を多く手がけている石川県出身のイラストレーター、スソアキコさんのトークショーも行われました。どの体験コーナーも終日にぎわいをみせていましたが、とりわけ、「縄文弓矢」、「スタンプラリー」、「古代米試食」が人気でした。



和太鼓演奏



まいぶんO×クイズ



スソアキコさんのトークショー



まが玉づくり



土偶づくり



まいぶんパズル



たくほん体験



農園収穫



古代米試食



発掘体験



火おこし



縄文弓矢

第 20 回いしかわの発掘展

『遺跡が語る 発掘 20 年の歴史—奈良時代から江戸時代編—』

開館 20 周年を迎え、これまで実施してきた発掘調査の成果を振り返る展示を行いました。昨年は旧石器時代から古墳時代の展示品を紹介し、今年は奈良・平安時代から江戸時代をとりあげました。平成 30 年 7 月 14 日(土)～9 月 2 日(日)の開催期間中 4,461 人の方が来館され、展示をみてくださった方に 20 周年記念として進呈した 3 種類のクリアファイルは大変好評でした。

ホールではこれまでの古代体験を紹介し、発掘体験教室や出前考古学教室などの懐かしい写真を展示しました。展示場の奈良・平安時代“古代国家、到来”では出土井戸の部材を組み立てての展示や、大きく掲げられた古代北陸道のルート図などが目を引いていました。鎌倉・室町時代“躍動する人々”では公開の機会が少なかった七尾城跡の出土品や、東アジアの国々との交易を示す資料などが展示され、経済活動が活発化した中世の暮らしぶりを伝えました。五輪塔など石造物の展示では当時の祈りや弔いの形を紹介し、独特の雰囲気を出してしていました。安土・桃山時代から江戸時代“太平の世に生きる”では、産業技術の発達で、生活用具や娯楽品、嗜好品、服飾品など種類も豊富な品々が生産され、使われていた様子が紹介されました。ままごと遊びに使う陶磁器などのミニチュア品や化粧道具にみ入る人の姿が多かったです。また、化粧道具のコーナーに展示されていた鏡が、実は平安時代のものであることが見学者の指摘で判明するなど、情報発信としての展示の意味をかみしめた企画展となりました。



ホール展示



奈良・平安時代の展示



古代北陸道のルート図



鎌倉・室町時代の展示



20 周年記念クリアファイル



安土・桃山時代から江戸時代の展示



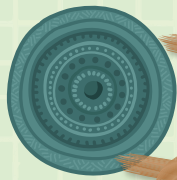
鎌倉・室町時代の展示 (奥に石造物)



見学の親子



江戸時代のミニチュア製品



まいぶん日誌



平成30年
7月～10月



「はにわの日」の準備中

7月

出前教室でつくった
縄文土器を野焼き



新しい土器バズル
をつくっています



今年も人気の
「親子の発掘体験教室」



出てきたよ

今年の夏は暑いよー!



「いしかわの発掘展」
の準備で大忙し



町の職員と一緒に
出前考古学教室



8月



はにわづくりに挑戦



ようやくお披露目、最古の
「柄付き鉄製ヤリガンナ」

10月

普段はみられない
バックヤードの
ワクワク



みなさんで、はいチーズ



秋が深まっています

パソコン入れ替え
は大変!.....



楽しく学ぶ「まいぶん博士講座」



まいぶん博士
第1号
おめでとう

9月



工房前の外で
火おこしだ!



東京の大学から
ようこそ



台風ではにわも避難



団体で
あんぎん体験

